



TOPIC
1

コロナ禍における全学共通教育の取り組み

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、大学教育も大きな影響を受けました。福井博一教育推進・学生支援機構長（教育担当副学長）に昨年度からのコロナ禍における全学共通教育の取り組みについてお話しいただきました。

昨年3月に始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の国内での蔓延を受けて、岐阜県から非常事態宣言が出されたことから、岐阜大学では2020年4月13日から5月6日まで一部休業措置が取られ、さらにその後5月20日まで特別措置期間として授業は原則e-Learning教育での実施となり、対面授業を行うことができませんでした。同様な措置は東海地域の各大学でも取られ、前学期あるいはその後の後学期も通じてe-Learningで教育を実施した大学が数多くありました。しかし、岐阜大学では4月16日に学長から『新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言に対応した岐阜大学の教育に関する考え方』として下記の表明がなされました。



福井 博一
教育推進・学生支援機構長

大学の教育は知識習得のみを目的とするものではなく、事象に対する捉え方や判断力、考え方などを学修することが重要です。この観点において、対面授業は大学教育の根幹をなすものと考えています。従って、授業にe-Learningを採用する場合、対面授業と同等の教育の質の保証の確保についての真剣な議論が必要です。『岐阜大学は、大学教育の質の保証を確保しながら、最大限のe-Learningの導入に取り組みます。』

この学長表明に対応して、岐阜大学では特に新入生を中心とした対面授業の実施に加えて、e-Learning教育での「教育の質の保証」の確保に取り組みました。また、本年（2021年）7月から学内でのワクチンの職域接種が始まり、8割弱の接種率に達したことを受けて、本年の後学期からは「感染リスク管理を徹底したうえで、原則として対面形式にて授業を実施する」といたしました。

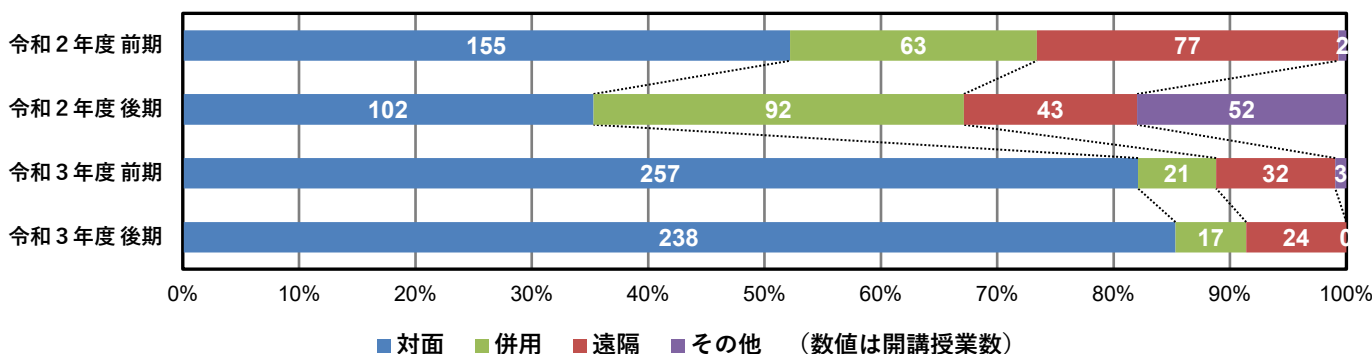
この1年半の間に全国の大学の学生からは「大学での授業が受けられない」ことに対する不安や不満が寄せられています。幸い岐阜大学では1年生の授業満足度は高く、2020年度では75.7%、2021年度では82.1%の学生が授業に対して満足感を感じてくれています。

昨年4月に法人統合した名古屋大学の教員から「岐阜大学の学生は全員がマスクを着用している」と驚きの声が聴かれています。その成果として岐阜大学では幸い感染クラスターが認められていません。これもひとえに学生の皆さんの高い意識の賜物と感謝しています。とはいえ、COVID-19に対する不安を感じている学生諸君がいることも理解しています。不安を感じた際には遠慮なく保健管理センターに相談してください。岐阜大学では学生諸君に対する心のケアにも積極的に取り組んでいます。

COVID-19の発生は変異株の出現も含めて今後も続くと思われませんが、上述の学長表明に示されるように、岐阜大学は「教育に軸足を置いた教育・研究大学」を理念としており、学生諸君の成長を支え続けます。是非、共に学ぶためにもCOVID-19に対する万全な感染リスク管理の徹底に取り組ましましょう。

昨年度からのコロナ禍における全学共通教育の授業形態は下図の通りです。令和2年度は約47%の授業が遠隔（対面との併用を含む）で実施されました。令和3年度では8割以上が対面での実施となりました。

全学共通教育の授業形態（令和2年度～令和3年度）



高年次教養セミナーを受講してみませんか

高年次教養セミナーは、今年で4年目を迎えました。2021年度からは、基盤教育センターの各部会から講師を推薦していただき、様々な分野の先生方から講義を聴講できる体制を整えました。コロナ禍のため講義時間と教室も変更し、15時からコモンズ教室で開講しています。前学期は受講者の学生が9名となり、毎回賑やかに講義とディスカッションが行われました。

今回は2021年度前学期に行われた講義の一部概要をご紹介します。

第1回：4月16日（金）山田敏弘先生（教育学部）「暮らしの中のロマンス語」

山田先生は大学生のとき、なんと「レト・ロマンス語」を専攻されていたそうです。実は私たちの暮らしの中にはロマンス語があふれていて、英単語の多くはロマンス語系なのだそうです。また、この日のために作成してくださったオリジナルの元素記号の一覧表をもとに、語源の解説がありました。元素記号は暗記するだけのものでしたが、山田先生の講義によって元素記号を身近に感じられるようになりました。高校時代にお聞きしなかったです。

第2回：5月14日（金）野村幸弘先生（教育学部）「絵から何が読み取れるか？」

フェルメールなどの数枚の絵画を見て、アメリカの教育現場で実践されている美術鑑賞法の1つ「ヴィジュアル・シンキング・ストラテジーズ」を全員で体験しました。歴史的背景や作者の経歴をもとに絵を鑑賞し、それぞれの解釈を語り合い、絵画の理解を深める方法を学びました。

第3回：6月4日（金）八代田真人先生（応用生物科学部）「肉を食べることは問題か？」

肉（牛肉）の消費拡大に伴う家畜生産は、地球温暖化の主要な要因の1つであるとされます。近年は代替肉、培養肉が徐々に活用されており、その現状と是非について全員で議論しました。「代替肉を食べる」ことが宿題となり、数人の学生が食べてみたようです。食感と味については…。よろしければ、みなさんも購入して食べてみてください。

第4回：7月9日（金）吉野純先生（工学部）「天気予報とビジネス」

吉野先生は気象予報士の資格をお持ちで、毎日、岐阜県や愛知県の天気予報をHPで発表されています。企業の活動にもっと気象情報を活用した方がよいとお考えで、受講生とともに気象ビジネスのアイデアを議論しました。上手くいくと学内ベンチャーができるかも？知れません。

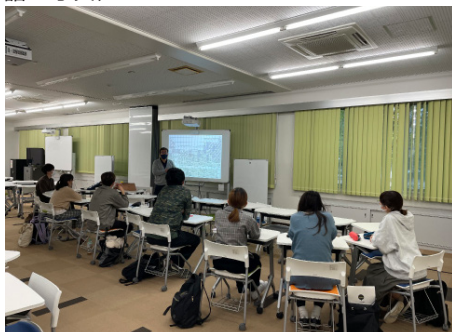
第5回：7月31日（金）塚本明日香先生（地域協学センター）「五行思想への反発 — 『魏書』から読む魏収の思想」

魏収（506-572年：北齊の文人、『魏書』の選者）は、次々に王朝が変わる時代において、世の中の万物を五要素（木、火、土、金、水）で解釈する五行思想に代わる新しい思想が欲しいと思ったそうです。塚本先生には歴史的背景を含めて、魏収の五行思想への反発は成功したのかどうかについて、詳しく解説をしていただきました。

第1回：山田先生（右側が元素記号の話の写真）



第2回：野村先生



第3回：八代田先生



第4回：吉野先生



第5回：塚本先生



2021年度後学期も引き続き、10月15日（金）から高年次教養セミナーが始まっています。前学期よりもさらに受講者数が増え、12名となりました。

- 第1回：10月15日（金）田中嘉津夫先生（元工学部）「常陸国うつろ舟奇談－SFと民俗伝承の狭間」
- 第2回：11月5日（金）光永徹先生（応用生物科学部）「天然物化学への招待 ～薬と毒は紙一重～」
- 第3回：11月19日（金）内海志典先生（教育学部）「答えが1つでない問題にどのように答えをだすのか。」（日程変更あり）
- 第4回：12月17日（金）大平幸子先生（医学部看護学科）「社会問題から心の健康を考える」
- 第5回：1月21日（金）高木朗義先生（社会システム経営学環）「協働と共創のまちづくり」

後学期も、毎回、先生方にはとても魅力的なテーマで講義をしていただきます。全学共通教育棟1階玄関にポスターを掲示しています。興味がある人は、是非、聴講に来てください。（清島 絵利子）

TOPIC
3

国立大学教養教育実施組織会議に学ぶ不正行為への対応

国立大学教養教育実施組織会議が開催された。もともと今回は、参加者が一堂に会するスタイルではなく、加盟校が事前に提出した回答文書を当番校が取りまとめたうえで一斉配信する形での実施となった。

岐阜大学は毎年、この会議でディスカッションするための議題を精力的に提案しており、今大会でも本学から提起した議題が4件採択された。それらは「試験やレポートにおける不正行為と処分について」、「ここ数年で各校のアクティブ・ラーニングの定義は変化したか」、「成績評価のガイドラインについて」、「授業評価アンケート以外で学生の教養教育に対する意向を聴取する方法について」の4つである。ここではそれらのうち、1つめの不正行為に関する加盟各国立大学の対応について紹介したい。

まず、本学ではご存じのとおり、全学共通教育科目の試験においてカンニングを行った場合は当該学期に履修した単位の半分を無効とし、また、レポートにおいて剽窃（ひょうせつ：いわゆる“コピペ”のこと）を犯した場合は全ての単位を無効とする決まりとなっている（『全学共通教育科目履修案内2021』、29頁参照）。

今大会での各大学の報告からは、不正行為に対するペナルティの在り方が、同じ国立大学でも学校によって実に様々であることが分かった。やや驚きをもって受け止めたことは、回答を寄せた42大学のうち、不正行為に対して懲戒処分（退学、停学、訓告など）を下していると感じる大学が半数を超えることである（岐阜大学は下していない）。最も厳しいと思われる処置は、東京工業大学の退学である。このほか、「特に悪質な場合は」退学（岡山大学）、停学一か月（福島大学）、停学50日（山口大学）などがある。単位取消についてはすべての科目を無効とする大学から、当該科目のみ不可とする大学（これは実質的に何ら罰を与えないに等しい）まで様々である。

新鮮に思えたことは、不正行為が発生すれば、都度、調査委員会を立ち上げる大学が目立ったことである。あるいは、保護者の呼び出しを行っている大学や、懲戒処分を受けた学生個人が特定できない形でその事実を公表するという大学もあった。

全体を通して言えることは、不正行為への対応については、国立大学間に統一感はなく、まだまだ検討を重ねる余地があること。特にレポートにおける剽窃の問題については、防止のための教育を含めて手探り状態にあると言えそうだ。（廣内 大輔）

TOPIC
4

令和2年度基盤教育センターキャリア教育部会主催FD

令和2年度、キャリア教育部会は2度のFDをzoomで開催した。ここではその模様を簡単にではあるが、振り返りたい。

①学生の課外活動を支援する体制作りとモチベーションを引き出す支援のあり方

講師：田口めぐみ氏（明治学院大学ボランティアコーディネーター、岐阜大学卒業生）

開催日時：令和2年11月18日（水）15時から17時

参加者数：8名

内容：明治学院大学での学生ボランティアのコーディネートの経験から、課外活動の中でもとりわけボランティア活動に焦点をあててお話し頂いた。学生が活動しやすい、また活動を活性化させるための体制作りをする上で何が必要とされているのか。この点について講師が今まで明治学院大学で携わった様々な具体例を挙げながら90分間お話し頂いた。質疑応答の際は多くの質問が出され、今後岐阜大学における学生のボランティア活動を活性化させる上で非常に示唆的なヒントを得ることができた。

②キャリア教育におけるカリキュラムと組織のマネジメント

講師：中川洋子氏（立命館大学 共通教育推進機構教授）

開催日時：令和3年2月17日（水）15時から17時

参加者数：14名

内容：立命館大学は岐阜大学と同じ総合大学であり、複数のキャンパスを持つ。学生のキャリア形成に特に力を入れており、その体制と授業編成、取り組み内容は逐一ホームページで発信されている。今回お話し頂いた中川洋子先生には、立命館大学のキャリア教育をめぐる様々な統計資料をお見せいただきながら現在の体制が出来るまでの経緯、現在進行中の教育プログラムや抱える問題点、そして今後の展望をお話し頂いた。質疑応答では非常に多くの質問が出され、関心の高さがうかがえた。今後もキャリア教育をめぐる情報交換をすすめていきたい。（白村 直也）

令和2年度 第2回 岐阜大学 教育推進・学生支援機構基盤教育センター主催FD ①

学生の課外活動を支援する体制作りとモチベーションを引き出す支援のあり方

講師 田口 めぐみ 氏

日時
令和2年
11月18日(水)
15:00~17:00

＜講師プロフィール＞
東海大学立命館大学卒業生。岐阜県内の小中学校に勤務。主に専攻指導教員に携わり、福祉系企業での研修、講師指導教員を専攻してまいりました。岐阜県立「明治学院大」。

令和2年度 第4回 岐阜大学 教育推進・学生支援機構 基盤教育センターFD企画

キャリア教育におけるカリキュラムと組織のマネジメント

講師 中川洋子 氏
立命館大学 共通教育推進機構 教授

日時
令和3年
2月17日(水)
15:00~17:00

＜講師紹介＞
大学におけるキャリア教育の実践や研究に取り組んでいます。福島の大学で行われているキャリア教育・支援プログラムも取り扱っています。

新人スタッフの紹介

Frid Joanis 先生

Originally from New Jersey, I am one of the new specially appointed assistant professors at Gifu University's English Center. While I was born in America, I spent the first seven years of my childhood living in Port-Au-Prince, Haiti with my family before moving to West Orange, New Jersey. Consequently, English is my third language after Haitian Creole and French.

The experience of having to learn English as I grew up in America is what inspired me to become an English teacher—so that I could help others improve their English language abilities. My journey has led me to become a teacher that has taught English in various settings and with different levels of students, from elementary school students to working adults both in America and in Japan.

I have a Master of Science in Teaching English to Speakers of Other Languages, a CELTA certificate, and over six years of teaching experience. My hobbies are traveling, eating new foods, and hiking.



Mark Guthrie 先生

After finishing university, majoring in English, I felt a desire to see the rest of the world, so I decided to go backpacking around Asia and Australasia. In that time, I discovered how lucky I was that all around the world people spoke English, and that I could communicate in my native language.

It was then that I decided that I wanted to help others to do the same thing and, after moving to Sweden, I took teaching qualifications, before coming to Japan in 2013. Here, I began working as a high school ALT — if you went to school in northern Aichi, maybe you recognise me!

I am very happy to be part of Gifu University's English Center, and I am really enjoying meeting all the fantastic students here. If you want to know more about me, or if you would like to practice your English, why don't you join me for English Xtra sometime!



English Xtra の紹介

English Xtra provides an opportunity for students and staff at Gifu University to study and practice English, either individually or in small groups. Sessions are 20 minutes long, and the teacher will be happy to answer your questions, give you advice, or just chat! You can ask about effective study methods, strategies for improving test scores, studying abroad, or anything else that you think an English teacher might be able to help you with.

Sign up for English Xtra by writing your name in one of the slots on the schedule posted outside the Center. The schedule shows which teachers are available in which time slots. If you want to, you can practice with the same teacher every time you come, but you can hear a wider range of English varieties and accents, and also learn about a wider range of cultures, if you practice with a different teacher each time you come.

English Xtra is available to all undergraduate and post-graduate students, and to all the office and administrative staff of Gifu University. We are looking forward to meeting you! (**デイビッド バーカー**)

基盤教育センター（令和3年4月現在）

センター長 山田 敏弘 専門分野 日本語学
副センター長 瀬瀬 守 専門分野 化学
副センター長 廣内 大輔 専門分野 高等教育論
副センター長 橋本 智裕 専門分野 化学

岐阜大学 教育推進・学生支援機構 基盤教育センター

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
TEL. 058-293-2169
email : gjea01008@jim.gifu-u.ac.jp
<https://twitter.com/GifuKyouyou>
<https://www.facebook.com/GifuKyouyou>

山田敏弘 橋本智裕 責任編集